

鳥取県病原微生物検出情報

(令和7年6月検出分 検体採取 令和7年5月及び6月)

令和7年7月18日

鳥取県衛生環境研究所

1 急性呼吸器感染症

臨床診断名が急性呼吸器感染症の検体68件について検査を実施したところ、以下のとおりの結果であった。

検査対象（ウイルス）

ライノ、メタニューモ、インフルエンザ-A型及びB型、パラインフルエンザ1-4、RS-A型及びB型、ボカ、SARS-CoV-2、エンテロ、アデノ、コロナNL63（※）

検査対象（細菌）

百日咳菌、*Bordetella holmesii*、*B. parapertussis*（※）、マイコプラズマ（※）

※印は5月21日搬入検体分より実施。

検出結果

68件中46検体（68%）から上記対象病原体が検出された。内訳は、ライノ：21件、ボカ：12件、ヒトメタニューモ：4件、RS-A型：1件、RS-B型：1件、SARS-CoV-2：3件、パラインフルエンザ1：1件、パラインフルエンザ3：14件、パラインフルエンザ4：2件、アデノ：9件、インフルエンザB型：1件、コロナNL63：1件、マイコプラズマ：2件であった。4月及び5月検出分と合わせた年齢別検出数は表1のとおり（ただし、検出件数は重複検出を含む。）。

表1. 急性呼吸器感染症の病原体、年齢別検出件数（令和7年4月～6月検出分）

病原体	年齢別検出数（ ）は標本数を示す									合計 (172)
	0-4 (77)	5-9 (11)	10-19 (7)	20-39 (11)	40-59 (25)	60-69 (17)	70-79 (13)	80-89 (6)	90-99 (5)	
ライノ	39	5	4	5	5	3	3	1		65
ボカ	26						1			27
ヒトメタニューモ	9				1	4	2			16
RS-A					1		1			2
RS-B	9	1							1	11
SARS-CoV-2	3	1		2	2		1	1		10
パラインフルエンザ1	1									1
パラインフルエンザ3	12				3	1	1	2	1	20
パラインフルエンザ4	5				1					6
アデノ	10	1		2						13
インフルエンザB型	1		2		1					4
百日咳		1								1
コロナNL63	2									2
マイコプラズマ		1	1							2
検出せず	10	3	1	6	10	9	6	2	3	50

アデノは1型が3件、6型が1件、C種5件であった。アデノC種は急性呼吸器感染症の原因となるウイルスであり、1型及び6型もC種の1つである。昨年同時期に流行した咽頭結膜熱の原因ウイルスであるアデノB種（3型など）は、検出されなかった。

インフルエンザB型1件はビクトリア系統であった。

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の6件について検査を行ったところ、2件からノロウイルスが検出された。ノロウイルスの2件はいずれもG2でGII.P16-GII.4であった。また、アデノウイルス6型が1件、A群ロタウイルスが1件（10歳児）検出された。アデノウイルス6型（C種）は感染性胃腸炎と診断された患者便からよく検出されるが、扁桃に持続感染し小児の糞便中に間欠的に排出されるため、感染性胃腸炎との因果関係は明確ではない。

3 A群溶連菌感染症

臨床診断名がA群溶連菌感染症の7件について検査を行ったところ、A群溶連菌4件が分離されT1型1件とT型別不明3件であった。

※T型別：細菌表面にあるTタンパク抗原を血清凝集反応によって型別したもの。病原性タンパクをコードするemm型遺伝子型と密接な関係がある。T型別の方が試験が簡易なことから型別によく使用されている。T1型はemm1型であることが多く、emm1型は、劇症型溶連菌で最も多い型である。

4 RSウイルス感染症

臨床診断名がRSウイルス感染症の2件について検査を行ったところ、RSウイルスA型が1件、RSウイルスB型が1件検出された。

5 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の1件について検査を行ったところ、アデノウイルスは検出されなかった。

6 手足口病

臨床診断名が手足口病及び手足口病疑いの2件について検査を行ったところ、エンテロウイルスはいずれも検出されなかった。

7 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の1件について検査を行ったところ、エンテロウイルス、アデノウイルス、ムンプスウイルス、ヘルペスウイルスのいずれのウイルスも検出されなかった。

8 水痘

臨床診断名が水痘の1件について検査を行ったところ、水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。